

土木学会選奨土木遺産 現存最大級の砲台施設

きゅうみたかやま 旧三高山砲台

広島県江田島市

呉鎮守府はその海勢奥深く、佐賀関海峡だけ防御上の欠点が多いけれども、東西に紀淡海峡馬関海峡の天険を有し、尚、内海には幾多の島々に砲台建築の企図もあり、宮島、早瀬、音戸方面、その他必要な場所に水雷を布設すれば、その堅い守りはますます強固となり・・・
(伊藤博文著『秘書類纂』より意訳)

明治 16 (1883) 年、西海鎮守府の候補地を求めて沿岸の調査・測量が実施されると、安芸郡の呉浦（現・呉市）が軍港として最適地とされました。明治 22 年に呉鎮守府が開庁となり、呉は世界的軍港への道を歩き始めます。

その 6 年後の日清戦争を経て、わが国はロシアとの国交が急を告げる事になります。こうして明治 31 (1898) 年 2 月を境に、呉港へのバルチック艦隊進入を防ぐため、広島湾での砲台建設が始まったといわれています。ただ、伊藤博文の『秘書類纂』によれば、「内海に砲台建築の企図あり」との文言が記されていますので、それ以前から砲台計画はあったようです。

13ヶ所に設置された広島湾要塞の一つ「旧三高山砲台」は、沖美町（現・江田島市）西北部の砲台山にあります。砲台へ上っていく砲台山スカイロードと名付けられた道路は、この要塞への軍用道路でした。28cm 榴弾砲 6 門、連射砲 2 門、弾薬庫、兵舎、炊事場を備え、日本最大規模といわれた砲台の総面積は 6 万坪（約 198,000 m²）です。この砲台施設からうかがえるのは、きれいに揃った花崗岩と播州煉瓦が使用されている点です。軍用施設だからか、当時の土木、建築の最先端技術、そして最上の材料で造られたのでしょうか。保存状態も良好です。

しかし、関門海峡と紀伊水道に呉鎮守府を守る砲台ができると、広島湾要塞は一度も実戦で使用されることなく、大正 8 (1926) 年に役割を終えました。

現在、「創造の森森林公園」として砲台山は整備され、学習の場となっています。標高 400 m の展望台から見る広島湾は、安芸の宮島をはじめ点々と小島が浮かんでいます。90 年前にこの同じ眺めを見た兵士の事を思うと、平和な時代のありがたさが身に沁みます。

■位置図



展望台から北西を望む。正面の島が宮島。
この海を通過するロシアのバルチック艦隊を想定して、
広島湾を囲む各所に砲台が造られた。



兵舎
兵舎は石造りで、窓と屋根が修復されている。



旧呉鎮守府兵器部護岸および関連施設
整然と積まれた花崗岩の護岸、巧みに加工された石階段、クレーン等、旧呉鎮守府兵器部の施設が保存され、公園化されている。



現存する最大級の呉（広島湾）要塞の砲台施設「砲座跡」
砲台山森林公園として整備されており、保存状態も良好で学習の場となっている。28 センチ榴弾砲が 6 門配備されていた。